

プールの底を蹴って、水面に上昇するイメージ。
あらがえない運命でも立ち上がろう、折れずに。



Active person

奥山 睦さん

おくやま・むつみ
株式会社ウイル 代表取締役。
慶應義塾大学大学院博士課程在籍中。1990年企画制作会社「ウイル」を設立。出版をはじめテレワーク事業、女性・障がい者雇用の促進、中小企業支援など多方面にわたり活躍。キャリアコンサルタントとしての顔も持ち、女性のキャリア形成や新たな働き方を発信し続ける。「働き方の問題地図」「下町ボブスレー」など著書多数。

奥

山睦さんが部屋に入られたとたん、空気がふわりとやわらいた。経歴を拝見して、中小企業のガンコ社長とも渡り合える、押しの強い方だろうと勝手に想像していたので、少し意外な気がした。

1990年に起業。当時はまだ30代の女性創業者は珍しかったという。編集・出版の仕事に加え、日本の屋台骨を支えてきた「ものづくり」の中小企業が窮地に陥っていると聞けば活性化プロジェクトを立ち上げ、昭和体質の経営者たちをまとめた。まさに「下町ロケット」を地でいく活躍ぶりであった。

ところが6年前、突然の大病で1年以上の闘病生活を強いられる。「自分の病にも関わる脳神経系の本を読みふけていたとき、一番感銘を受けたのが慶應大学の前野隆司先生の本でした」

数か月後、まだ回復途上の時期、ある学会で奥山さんは前野教授に出会う幸運を得る。翌週すぐに研究室を訪ね、自分は闘病中だが学びたい、どうしたらよいかかわからないと心情をすべて吐露した。

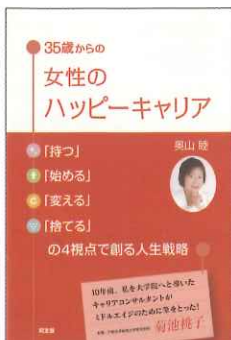
「じつと聴いていらした先生は、『僕の研究室に来ませんか？』と一言おっしゃったんです。病気で調子が悪いときは授業を休めばいい、と。

研究室を出たあと、驚きとうれしさで涙が止まりませんでした。その後必死で大学院の受験に臨み、前野研究室に入りました」

奥山さんは著書のなかで「計画された偶発性理論」というキャリア理論を解説している。個人のキャリア形成は偶発的な出来事に大きく影響され、それに懸命に対処することで人は成長できるという。一見偶発と見える出来事も、振り返ればまるで必然のようにその人の生き方を彩り、成長へと導く。

奥山さんが多くの人を惹きつけるのは、不断の努力とバイタリティーで、どんな困難な出来事でもチャンスに変えられる人であることを感じ取るからかも知れない。

第一印象の「ふわり」は、いくつもの山を乗り越えた人から醸される包容力と安心感だったのだ、と腑に落ちた。



〈奥山睦さん近著〉
『35歳からの女性のハッピーキャリア』
同友館／1600円(税別)

※奥山 睦さんによる「整理収納コンペティション 2020 オンライン特別講演」は、6月28日(土) 11:50～12:20に配信予定です。